



2020年9月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2020年5月12日

上場会社名 フィンテック グローバル株式会社 上場取引所 東
 コード番号 8789 URL <http://www.fgi.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 玉井 信光
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役副社長 (氏名) 鷲本 晴吾 (TEL) 050-5864-3978
 上席執行役員
 四半期報告書提出予定日 2020年5月14日 配当支払開始予定日 —
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2020年9月期第2四半期の連結業績(2019年10月1日～2020年3月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2020年9月期第2四半期	4,269	30.3	△495	—	△560	—	△581	—
2019年9月期第2四半期	3,277	91.3	△1,467	—	△1,567	—	△1,244	—

(注) 包括利益 2020年9月期第2四半期 △660百万円(—%) 2019年9月期第2四半期 △1,601百万円(—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2020年9月期第2四半期	△2.89	—
2019年9月期第2四半期	△6.50	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2020年9月期第2四半期	17,453	8,135	39.0
2019年9月期	19,025	8,873	39.1

(参考) 自己資本 2020年9月期第2四半期 6,811百万円 2019年9月期 7,446百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2019年9月期	—	0.00	—	0.00	0.00
2020年9月期	—	0.00	—	—	—
2020年9月期(予想)	—	—	—	—	—

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

2020年9月期の期末配当予想は未定としております。

3. 2020年9月期の連結業績予想(2019年10月1日～2020年9月30日)

2020年9月期の連結業績予想については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大が今後も当社グループの事業及び業績に影響を与えることが考えられ、現時点で合理的な算出は困難であることから未定といたします。業績への影響を慎重に見極め、予想が可能となった時点で速やかに開示いたします。

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2020年9月期2Q	201,114,600株	2019年9月期	201,109,600株
② 期末自己株式数	2020年9月期2Q	一株	2019年9月期	一株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2020年9月期2Q	201,113,146株	2019年9月期2Q	191,572,055株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間は、メッツァにおいて2019年11月から各種施策を実施した結果、第1四半期には来園者数が前期の第4四半期と比べて19.8%増加し31万4千人となりましたが、当第2四半期は新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、ムーミンバレーパークを2020年3月に16日間臨時休園したことにより、来園者数は第1四半期比で28.3%減少し22万5千人となりました。一方、投資銀行事業においては、業務受託、投資回収、航空機アセットマネジメントがそれぞれ堅調に推移しました。

当第2四半期連結累計期間の経営成績については、投資銀行事業が堅調に推移し、前第2四半期の2019年3月開業のムーミンバレーパークの運営収益が期初から貢献したものの、臨時休園による機会損失や前期の第4四半期に公共コンサルティング事業の子会社を連結除外したことなどにより、売上高は4,269百万円（前年同期比30.3%増）、売上原価は2,968百万円（前年同期比27.6%増）、売上総利益は1,301百万円（前年同期比36.8%増）となりました。販売費及び一般管理費は、前第2四半期のメッツァの開業準備費用がなくなり、その他一時的費用や人件費も減少したことにより前年同期比25.7%減の1,796百万円になった結果、営業損失は495百万円（前年同期は1,467百万円の損失）、経常損失は560百万円（前年同期は1,567百万円の損失）となりました。親会社株主に帰属する四半期純損失は、臨時休園期間中の固定費（人件費、減価償却費等）71百万円を特別損失として計上したことや、非支配株主に帰属する四半期純損失73百万円により、581百万円（前年同期は1,244百万円の損失）となりました。

（単位：百万円）

	2019年9月期 第2四半期連結累計期間	2020年9月期 第2四半期連結累計期間	増減額
売上高	3,277	4,269	991
投資銀行事業	1,381	1,404	23
公共コンサルティング事業	445	126	△319
エンタテインメント・サービス事業	1,563	2,850	1,287
その他	21	—	△21
消去	△133	△111	22
売上総利益	950	1,301	350
投資銀行事業	379	719	339
公共コンサルティング事業	237	68	△169
エンタテインメント・サービス事業	359	567	207
その他	21	—	△21
消去	△47	△53	△6
営業損失（△）	△1,467	△495	972
投資銀行事業	△404	△35	369
公共コンサルティング事業	76	△13	△89
エンタテインメント・サービス事業	△691	△160	531
その他	△3	—	3
消去又は全社費用	△443	△286	157
経常損失（△）	△1,567	△560	1,007
税金等調整前四半期純損失（△）	△1,536	△629	907
親会社株主に帰属する四半期純損失（△）	△1,244	△581	662

セグメント別の業績は以下のとおりであり、売上高についてはセグメント間の内部売上高又は振替高を含めた売上高で表示しております。なお、報告セグメントに含まれない事業セグメント「その他」に含まれていた(株)アダコテックが、前期の第3四半期に連結の範囲から除外されたことにより、「その他」の区分は廃止しております。

① 投資銀行事業

投資銀行事業は、業務受託や航空機アセットマネジメントが堅調に推移する中で、アセット投資及び企業投資の回収があったことにより、売上高は1,404百万円（前年同期比1.7%増）となりました。セグメント損益は、前

第2四半期連結累計期間に企業投資の減損等360百万円がありましたが、これが12百万円に減少したことにより、35百万円のセグメント損失（前年同期は404百万円の損失）となりました。

② 公共コンサルティング事業

公共コンサルティング事業では、公会計事業として地方公共団体に対する統一的な基準による財務書類作成のコンサルティング業務に加え、財務分析レポート作成や公営企業会計導入、経営戦略策定等の受託業務の営業活動を推進しております。また地方創生事業として市場拡大が見込まれるPPP/PFI手法の導入検討等の受託業務を推進しております。

なお当社は、2019年7月1日付で都市インフラ管理システムに関する事業を行う㈱ジオプラン・ナムテックの株式の一部を譲渡し、同社を持分法適用関連会社に変更したため、前期の第4四半期より連結の範囲から除外しております。

公共コンサルティング事業の売上高は126百万円（前年同期比71.6%減）、セグメント損失は13百万円（前年同期は76百万円の利益）となりました。

③ エンタテインメント・サービス事業

エンタテインメント・サービス事業では、メッツァにおいて2019年11月から平日の駐車料金無料化、「1デーパス」発売、イベントの充実、ストーリーガイド配布やストーリーの扉の設置などのサービス・コンテンツ等の充実により顧客満足度を高めることを通じて、来園者数を拡大し収益を向上される施策を推進しました。そして、このような施策を踏まえ、ムーミンバレーパークは2020年3月14日にチケット内容・料金を改定しました。しかしながら、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止のため、ムーミンバレーパークは2020年3月に16日間臨時休園となり開園期間中も外出自粛の影響を受けたことにより、当第2四半期のメッツァの来園者数は第1四半期比で28.3%減の22万5千人、メッツァ関連の売上高は第1四半期比で37.1%減の800百万円となった結果、当第2四半期連結累計期間のメッツァ関連の売上高は2,071百万円（前年同期比125.1%増）に留まりました。

ライセンス事業では、日本国内におけるムーミンキャラクターの使用許諾に関する独占的な権利を供与されたサブライセンサーとして事業を展開しております。2019年4月より原画展「ムーミン展THE ART AND THE STORY」が全国巡回しており、東京、大分、石川、名古屋までの4会場で約24万人の来場者を動員しています。また、アニメ放映権を保有する新作テレビアニメシリーズ「ムーミン谷のなかまたち」は、NHK BS4Kで2019年4月から現在まで継続して放映（再放送含む）され、当第2四半期連結累計期間からネット配信やBD/DVD販売・レンタルも始まりました。ムーミンバレーパークの開業による話題と合わせ注目度が大きく拡大したことにより2019年10月以降17社の新規契約先を獲得し、ライセンス事業の売上高は778百万円（前年同期比28.2%増）となりました。

エンタテインメント・サービス事業の売上高は、臨時休園による機会損失があったものの、前第2四半期の2019年3月16日に開業したムーミンバレーパークの運営収益が期初から貢献したことやライセンス事業が増収となった結果、2,850百万円（前年同期比82.3%増）となりました。セグメント損失は、前第2四半期連結累計期間の開業準備費用負担がなくなったことにより160百万円（前年同期は691百万円の損失）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

① 総資産

当第2四半期連結会計期間末における総資産は前連結会計年度末より8.3%減少し、17,453百万円となりました。これは主として、現金及び預金が281百万円、不動産信託受益権の販売が進んだことにより営業投資有価証券が117百万円、不動産開発案件のエグジット（売却）により販売用不動産が301百万円、消費税の還付により流動資産のその他に含まれる未収消費税等が662百万円、ムーミンバレーパークの建物、内外装等の減価償却等により建物及び構築物（純額）が59百万円それぞれ減少したことによるものであります。

② 負債

当第2四半期連結会計期間末における負債は前連結会計年度末より8.2%減少し、9,317百万円となりました。これは主として、長期借入金が134百万円増加したものの、不動産開発案件のエグジットに伴う借入金返済により短期借入金が294百万円、1年内返済予定の長期借入金が452百万円それぞれ減少したことによるものであります。

③ 純資産

当第2四半期連結会計期間末における純資産は前連結会計年度末より8.3%減少し、8,135百万円となりました。これは主として、親会社株主に帰属する四半期純損失の計上等により利益剰余金が629百万円、非支配株主持分が99百万円それぞれ減少したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2020年9月期の連結業績予想については、新型コロナウイルス感染症の感染拡大が以下の「新型コロナウイルス感染症の感染拡大による事業及び業績への影響」のとおり、今後も当社グループの事業及び業績に影響を与えることが考えられ、現時点で合理的な算出は困難であることから未定といたします。業績への影響を慎重に見極め、予想が可能となった時点で速やかに開示いたします。

<新型コロナウイルス感染症の感染拡大による事業及び業績への影響>

2019年12月中国湖北省武漢市で発生した新型コロナウイルス感染症が、中国及び日本を含む世界各国で拡大しました。これによる当社グループの事業及び業績への影響は以下の通りです。

① 投資銀行事業

(アレンジメント・アセットマネジメント等の業務受託、アセット投資)

既存アセットマネジメント(AM)案件は、現時点においてコロナ禍の大きな影響は受けておりませんが、一部は施設の属性に応じて、投資運用戦略の見直しが必要となっています。なお、当社出資案件を含む数件のAM案件において、当第2四半期に物件売却が成約しており、当期中の決済予定です。今後については、新規案件のソーシングや投資案件のエグジットで投資家の投資姿勢が慎重となる場合においては、影響を受ける可能性があります。

(企業投資)

一部業種の投資先企業が、休業するなどの影響を受けております。また投資案件のエグジットについては、投資家との面談に制限が出ており交渉に影響が生じています。今後、投資家の投資姿勢が慎重となる場合、エグジットに影響を与える可能性があります。新規投資については、現在の経済状況を鑑み、厳選して行う方針としていますが、今後は再生案件が増加する可能性があります。

(航空機アセットマネジメント)

航空機の保守・メンテナンスや技術に関するアドバイザリー業務への需要は、現時点では大幅に変動しないと見込んでおります。

② 公共コンサルティング事業

地方公共団体等の財務書類作成支援が主たる業務であるため、影響は軽微であると見込んでおります。

③ エンタテインメント・サービス事業

(メッツァ関連)

メッツァにおいて、お客様と運営スタッフの安全を考慮し、2020年3月2日以降(3月14日から3月27日を除く)ムーミンバレーパークを臨時休園とし、2020年4月8日以降は政府の緊急事態宣言によりメッツァビレッジも臨時休園としております。2020年5月4日に緊急事態宣言の期間が2020年5月31日まで延長されたことを受け、特定警戒都道府県である埼玉県では緊急事態措置が継続実施されていますが、営業再開は緊急事態措置の区域からの除外や解除宣言を条件とし、その他の状況も総合的に考慮して判断して参ります。なお、商業施設であるメッツァビレッジから先に営業を再開することを検討しております。

このような臨時休園や外出自粛の影響により、当第2四半期は第1四半期比で売上高の減少や特別損失71百万円を計上するなど、業績等に影響が出ております。第3四半期は当第2四半期より休園期間が長くなっていることから、当第2四半期と比べてセグメント損益は悪化すると予想しております。

(ライセンス事業)

全国巡回している原画展は2020年4~5月の岩手展が中止、その他の物販催事も予定されていた複数の会場で中止となり、今後もイベント等の開催に影響がある可能性があります。また、ライセンスが運営する実店舗、主要販路である百貨店など大型商業施設の休業による影響がありますが、オンライン販売を始め今後需要が伸びると予想される販路や商品分野の強化により対応して参ります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年3月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,533,187	2,251,436
受取手形及び売掛金	727,499	733,316
営業投資有価証券	1,359,941	1,241,997
営業貸付金	548,625	529,995
販売用不動産	4,211,988	3,910,618
商品	208,577	284,077
その他	948,410	293,997
貸倒引当金	△99,641	△95,438
流動資産合計	10,438,589	9,150,001
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	5,328,377	5,365,911
減価償却累計額	△137,112	△233,716
建物及び構築物（純額）	5,191,265	5,132,195
その他	2,092,587	1,927,884
有形固定資産合計	7,283,853	7,060,079
無形固定資産		
のれん	180,388	149,263
その他	544,540	532,225
無形固定資産合計	724,929	681,488
投資その他の資産		
投資有価証券	211,068	207,022
その他	366,683	354,765
貸倒引当金	△110	△242
投資その他の資産合計	577,641	561,544
固定資産合計	8,586,424	8,303,112
資産合計	19,025,014	17,453,114

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2019年9月30日)	当第2四半期連結会計期間 (2020年3月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	213,256	207,562
短期借入金	373,904	79,283
1年内返済予定の長期借入金	752,968	300,968
未払法人税等	98,999	113,839
賞与引当金	157,244	145,361
その他	1,413,720	1,316,723
流動負債合計	3,010,093	2,163,738
固定負債		
長期借入金	6,086,260	6,220,871
退職給付に係る負債	94,633	102,696
その他	960,856	830,144
固定負債合計	7,141,750	7,153,711
負債合計	10,151,843	9,317,450
純資産の部		
株主資本		
資本金	6,461,911	6,462,062
資本剰余金	5,015,924	5,016,132
利益剰余金	△3,997,770	△4,627,756
株主資本合計	7,480,064	6,850,439
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△3,935	△8,187
為替換算調整勘定	△29,558	△30,301
その他の包括利益累計額合計	△33,493	△38,488
新株予約権	65,837	62,162
非支配株主持分	1,360,762	1,261,550
純資産合計	8,873,170	8,135,664
負債純資産合計	19,025,014	17,453,114

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年10月1日 至 2019年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年10月1日 至 2020年3月31日)
売上高	3,277,955	4,269,822
売上原価	2,327,007	2,968,595
売上総利益	950,948	1,301,227
販売費及び一般管理費	2,418,784	1,796,335
営業損失(△)	△1,467,835	△495,107
営業外収益		
受取利息	2,653	521
為替差益	—	6,985
受取和解金	5,821	—
その他	397	1
営業外収益合計	8,871	7,508
営業外費用		
支払利息	63,514	68,823
持分法による投資損失	—	2,085
為替差損	14,223	—
支払手数料	30,833	1,500
その他	23	363
営業外費用合計	108,594	72,772
経常損失(△)	△1,567,558	△560,371
特別利益		
固定資産売却益	—	1,185
関係会社株式売却益	58,845	—
新株予約権戻入益	1,448	4,486
特別利益合計	60,294	5,672
特別損失		
固定資産売却損	891	—
固定資産除却損	28,587	899
出資金評価損	—	2,140
臨時休園による損失	—	71,787
その他	178	—
特別損失合計	29,657	74,827
税金等調整前四半期純損失(△)	△1,536,922	△629,526
法人税、住民税及び事業税	56,917	55,223
法人税等調整額	△9,821	△29,347
法人税等合計	47,096	25,875
四半期純損失(△)	△1,584,018	△655,401
非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△339,502	△73,870
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△1,244,515	△581,531

四半期連結包括利益計算書
第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2018年10月1日 至 2019年3月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2019年10月1日 至 2020年3月31日)
四半期純損失(△)	△1,584,018	△655,401
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△14,077	△4,252
為替換算調整勘定	△3,103	△1,315
その他の包括利益合計	△17,180	△5,567
四半期包括利益	△1,601,198	△660,969
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△1,260,798	△586,526
非支配株主に係る四半期包括利益	△340,400	△74,443

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

前第2四半期連結累計期間(自 2018年10月1日 至 2019年3月31日)

当第2四半期連結累計期間において、新株予約権の行使により資本金及び資本剰余金がそれぞれ910,492千円増加しております。この事項とその他の変動を含めた結果、当第2四半期連結会計期間末において、資本金が6,461,911千円、資本剰余金が4,963,469千円となっております。

当第2四半期連結累計期間(自 2019年10月1日 至 2020年3月31日)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第2四半期連結累計期間(自 2018年10月1日 至 2019年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	投資銀行 事業	公共コンサル ティング事業	エンタテイン メント・ サービス事業	計				
売上高								
外部顧客への 売上高	1,257,912	439,787	1,558,897	3,256,598	21,357	3,277,955	—	3,277,955
セグメント間 の内部売上高 又は振替高 (注) 4	123,307	6,000	4,150	133,457	—	133,457	△133,457	—
計	1,381,220	445,787	1,563,048	3,390,055	21,357	3,411,413	△133,457	3,277,955
セグメント利 益又は損失 (△)	△404,967	76,059	△691,918	△1,020,826	△3,646	△1,024,472	△443,362	△1,467,835

(注) 1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれていない事業セグメントであり、連結子会社が行っているコンピュータソフトウェアの研究、開発、製造及び販売を含んでおります。

2 セグメント利益又は損失(△)の調整額△443,362千円には、セグメント間取引消去121,808千円及び報告セグメントに配分していない全社費用△565,171千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3 セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整しております。

4 「投資銀行事業」におけるセグメント間の内部売上高又は振替高には、「投資銀行事業」に属する当社が「エンタテインメント・サービス事業」に属する連結子会社である㈱ムーミン物語に貸貸するメッツァビレッジの賃料収入108,688千円が含まれております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

「エンタテインメント・サービス事業」において、㈱ライツ・アンド・ブランドの新規連結に伴う、当第2四半期連結会計期間ののれんは、64,681千円であります。

(重要な負ののれんの発生益)

該当事項はありません。

Ⅱ 当第2四半期連結累計期間(自 2019年10月1日 至 2020年3月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント				調整額 (注) 1	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 2
	投資銀行 事業	公共コンサル ティング事業	エンタテイン メント・サー ビス事業	計		
売上高						
外部顧客への 売上高	1,301,931	120,770	2,847,120	4,269,822	—	4,269,822
セグメント間の 内部売上高又は 振替高(注) 3	102,457	6,000	2,929	111,387	△111,387	—
計	1,404,388	126,770	2,850,050	4,381,210	△111,387	4,269,822
セグメント損失(△)	△35,019	△13,138	△160,658	△208,817	△286,290	△495,107

(注) 1 セグメント損失(△)の調整額△286,290千円には、セグメント間取引消去119,167千円及び報告セグメントに配分していない全社費用△405,457千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2 セグメント損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業損失と調整しております。

3 「投資銀行事業」におけるセグメント間の内部売上高又は振替高には、「投資銀行事業」に属する当社が「エンタテインメント・サービス事業」に属する連結子会社である㈱ムーミン物語に賃貸するメッツァビレッジの賃料収入82,056千円が含まれております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

前第3四半期連結会計期間より「その他」の区分に含まれていた㈱アダコテックが、連結範囲から除外されたことにより、「その他」の区分は廃止しております。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれんの発生益)

該当事項はありません。